

今週（6月10日から6月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週と概ね同様の展開となった。

無担保コールO/N物は、邦銀業態からの調達を中心に0.072~0.078%程度での出会いが継続された。積み期終盤となり、特別当座預金制度見合いの調達を行っていた先の一部にビッドを見送る動きが見られたものの、出会い水準に大きな変化は無く、加重平均レートは0.077~0.078%の横這い圏で推移した。14日(金)は、日銀金融政策決定会合2日目となり、一部に朝の運用を見送る先も見られたが、影響は小さく引き続き落ち着いた相場推移となった。

日銀当座預金残高は、13日(木)までは大きな変動がなく概ね539兆円台での推移となったが、14日(金)に年金定時払いを受け547兆円台まで大幅に増加して着地する見込みとなった。

また、13日(木)から14日(金)にかけて開催された金融政策決定会合では、金融市場調節方針の現状維持が決定された。合わせて「長期国債買入れを減額していく方針を決定」し、「市場参加者の意見も確認し、次回金融政策決定会合において、今後1~2年程度の具体的な減額計画を決定する」ことが発表された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は0.02~0.08%近辺で推移した。

T/N物は、週前半は0.045~0.065%近辺の出会いが中心となったが、引け間際にオファーが残る時もあり、甘めの出会いが見つ場面も散見された。12日(水)から13日(木)は、オファーが減少した事でレートが低下し、0.02~0.05%程度の出会いが中心となった。14日(金)は、決定会合後に再びオファーが増加した事でレートが上昇する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y440~461回、5Y150~168回、10Y355~374回、20Y180~188回、30Y65~82回、40Y13~17回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンと6Mゾーンが堅調に推移した。

13日(木)に行われた3M物の入札は、退避資金の流入などもあり強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも強含んで推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、卸売業、鉄鋼、小売業、不動産など複数の業態が大型発行を実施した。

市場残高は、週を通して概ね23兆円台後半で推移した。

発行レートについては、1M~2M程度の期間については、0.1%台前半で推移しているが、3Mを越える期間については、利上げを警戒する動きがあるため、レート水準にばらつきが見られた。

11日(火)にはCP等買入オベが事前予定通り3,000億円でオファーされた。結果は按分レート0.158%、平均レート0.186%と前回(按分0.161%、平均0.177%)比で、按分は低下、平均は上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/10 (月)	39,038.16	1.030	156.95	0.078	0.043	5,391,100
6/11 (火)	39,134.79	1.020	157.25	0.078	0.044	5,395,300
6/12 (水)	38,876.71	0.985	157.17	0.078	0.047	5,390,900
6/13 (木)	38,720.47	0.965	156.80	0.077	0.030	5,396,300
6/14 (金)	38,814.56	0.930	157.23	0.077	0.032	5,478,600

来週（6月17日から6月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/17 (月)	4月の機械受注統計(内閣府 8:50)				
6/18 (火)	4月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				5月の米小売売上高 5月の米鉱工業生産・設備稼働率 4月の米企業在庫 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値
6/19 (水)	金融政策決定会合議事要旨(4月25・26日分 8:50) 5月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 32,000億円 6/20発行			5月の英消費者物価指数 New York祝日(Juneteenth National Independence Day)
6/20 (木)	月例経済報告 (内閣府)	5Y 23,000億円 6/21発行			英中銀MPC 5月の米住宅着工件数
6/21 (金)	5月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 55,000億円 6/24発行			5月の米中古住宅販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/17 (月)	800	▲ 700	100	CP買入 国債補完	▲ 100 34,500		34,400	34,500	TB3M発行▲55,000償還58,000 個人向け3・5・10Y発行▲3,600 個人向け3・5・10Y償還800
6/18 (火)	500	1,000	1,500				0	1,500	
6/19 (水)	▲ 500	3,000	2,500	貸出増加支援	▲ 63,200		▲ 63,200	▲ 60,700	
6/20 (木)	▲ 500	70,000	69,500				0	69,500	国債大量償還、利払い TB1Y発行▲32,000償還32,900 5Y償還22,300、10Y償還14,400 20Y償還15,100 エネルギー対策借入▲8,200期日7,900
6/21 (金)	▲ 500	▲ 23,000	▲ 23,500	社債買入		800	800	▲ 22,700	機関貸元利回収 5Y発行▲23,000
週間合計	▲ 200	50,300	50,100	—	▲ 28,800	800	▲ 28,000	22,100	

6/17は日銀予想、6/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、新しい積み期間となるものの、ビッドサイドの資金調達ニーズの強い状況に変化は無いと思われる事から、引き続き今週と同水準での推移が予想される。債券レポGC T/N物のレート水準は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.00～0.10%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、19日(水)に1Y物、21日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、特段のイベントがない中、期越えの発行がどこまで膨らむか、動向が注目される。

主要なイベントは、国内では17日(月)に4月の機械受注統計、19日(水)に金融政策決定会合議事要旨(4月25・26日分)、21日(金)に5月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、18日(火)に5月の米小売売上高、5月のユーロ圏消費者物価指数改定値、20日(木)に英中銀MPCなどの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はおお客様自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入